

横浜港におけるクルーズ船事情と課題

日本船社が運航するクルーズ船の寄港回数が第1位の横浜港。日本国内のクルーズ船寄港回数が年々増加する中、クルーズ船の誘致や受け入れ体制など最近のクルーズ船事情や課題について、横浜市港湾局みなと賑わい振興部客船事業推進課担当係長の藤岡信剛（のぶひさ）さんにいろいろと伺った。



藤岡信剛さん

2016年の寄港実績と2017年の寄港予定を教えてください。

2016年の寄港回数実績としては127回で、この内訳は日本客船が87回、外国客船が40回となっています。2017年の予定としては、現時点で180回を超える予約をいただいております、すべてが予定通りに寄港すると過去最高の寄港回数となる見込みで、行政としても期待をしているところです。



大さん橋全景（横浜マリニタワーから）

特に日本客船は、横浜港船籍の「飛鳥II（5万142トン）」をはじめ、「にっぽん丸（2万2472トン）」や「ばしふいっくびいなす（2万6594トン）」などが安定的に横浜港に寄港いただいているおかげで、寄港回数が14年連続で日本一となることができました。

寄港回数や旅客数の動向はどうなっていますか？

寄港回数の動向としては、ここ数年120回から150回の間で推移していましたが、近年は日本全国の港で客船の寄港回数が増加傾向にあり、横浜港においても2017年の実績や予定、2018年の予約状況から増加傾向にあるといえます。

旅客者数については、近年の客船大型化の影響もあり、増加傾向で、統計として出している数字で申し上げますと、2013年ごろまで



「飛鳥II」（右）と「にっぽん丸」（左）が大さん橋に2隻同時に着船

は5～9万人程度であった横浜港の上陸者数が、2014年以降は10万人を超え、直近の2016年は13万人を超える旅客者に横浜を訪れていただきました。

■ 横浜港における最近のトピックは何ですか？

横浜港における最近のトピックは、本年7月26日に国土交通大臣から「国際旅客船拠点形成港湾」として、日本の他の5港湾（清水・佐世保・八代・本部・平良）とともに、指定を受けたことや、5月にシーボーン・クルーズ社の「シーボーン・ソジャーン (Seabourn Sojourn) ・3万2000トン」、7月にはプリンセス・クルーズ社の「マジェスティック・プリンセス (Majestic Princess) ・14万3000トン」およびスタークルーズ社の「スーパースター・ヴァーゴ (Superstar Virgo) ・7万5338トン」が横浜港に初入港したことです。



「Superstar Virgo」が横浜港に初入港
撮影：2017年7月9日・横浜臨港パーク

「マジェスティック・プリンセス」は日本における初入港で、「スーパースター・ヴァーゴ」は7月から11月までの間、毎週日曜日に入港することとなっています。

ちなみに「マジェスティック・プリンセス」は日本における初入港で、「スーパースター・ヴァーゴ」は7月から11月までの間、毎週日曜日に入港することとなっています。

■ 客船の受入体制に関する課題と取り組みを教えてください。

客船の寄港回数が増加傾向にある中、受入体制で大きな課題の1つが客船バースの不足です。外国客船は寄港するシーズンが限られており、ゴールデンウィークやシルバーウィーク、夏休みなどの期間に予約が集中します。予約重複時には調整が難しく、予約をお断りせざるを得ないという状況が発生しました。



この状況を改善するため、海上保安庁の防災基地の反対側で、以前客船ターミナルがあった新港ふ頭に新たに客船ターミナルを整備することとし、2019年春からの供用開始を目指しております。

もう1つの課題は横浜ベイブリッジをくぐれない超大型客船への対応です。現時点でベイブリッジを通過できる一番大きい客船は「ダイヤモンド・プリンセス (DIAMOND PRINCESS) ・11万5875トン」ですが、これより大型の「マジェスティック・プリンセス」などは厳しい状況です。



大黒ふ頭地区大型テント (CIQ 施設) および駐車場
イメージ図 (出典：横浜市港湾局ホームページより)

このため、大黒ふ頭の T1・T2 バースで超大型客船の受け入れをしていますが、本来は自動車専用船のバースのため関連施設などはなく、その都度準備が必要となりますし、せっかく超大型客船が寄港しても建物の陰になって陸側から見る事ができない状況となっているため、ベイブリッジの下の T3・T4 バースに着岸できるようにし、C I Q（関税・入管・検疫）も設置して受け入れができるように整備を進めています。こちらも 2019 年のラグビーワールドカップ決勝が横浜で実施されること、2020 年にはオリンピック・パラリンピックが開催されることなどを踏まえ、2019 年春からの供用開始を目指して整備中です。

ちなみに、これらのバースが完成すると最大 4 隻の受け入れが可能となり、T3・T4 は「オアシス・オブ・ザ・シーズ (OASIS OF THE SEAS)・22 万 5282 トン」クラスなど世界最大級の客船の受け入れも想定しております。

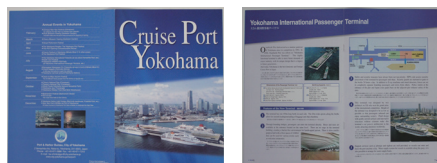
■客船誘致にどのような取り組みをしていますか？

横浜港は、一時寄港だけではなく、クルーズの発着港としても活用できる日本の中でも数少ない港です。このため客船バースも発着港であることを念頭に整備を行うとともに、受け入れ体制の強化も図ってきました。

これらにより「ダイヤモンド・プリンセス」が定期的に寄港しているほか、来年以降も通年寄港（2018～19 年春）の予定となっております。外国客船が横浜港発着で通年運航することは初めてであり、行政としても楽しみにしていますし、期待もしております。

また、横浜港は海の静穏度が高く、季節の影響を受けにくく、安全に出入港できることも大きな特徴です。

この他にも東京に近いという強みもあり、「飛鳥 II」などの日本客船による数多くのワンナイトクルーズが実施されております。



ポートセールス用の英語版パンフレット



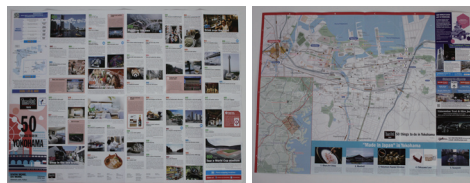
横浜港に入港する「飛鳥 II」と入港サポートをするタグボート「魁 (LNG 燃料船)」

■客船から大勢の方が観光に出られると思います。

横浜港では、大型客船が寄港した場合、相当な台数の観光バスやタクシーが観光地などに向けて移動するため、発着時などに渋滞が発生してしまいます。この渋滞緩和に向け大さん橋 1 号線の拡幅工事（2 車線→3 車線）の実施や、横浜市交通局と連携したシャトルバスの運行など、乗船客の皆さんの移動ストレスを減少させるためのハード面の整備や市内回遊性を向上させるための取り組みも進めております。

なお、以前は日本大通りから大さん橋の間が石畳であったため、キャリーバックなどが

ガタガタして移動が大変でしたが、現在はアスファルト舗装に整備しました。また、一斉に移動されるため混雑することが予想されますので、この通りのさらなる整備を予定しています。

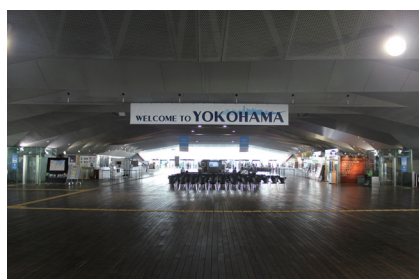


観光案内と地図が掲載された観光パンフレット

この他、文化観光局や横浜観光コンベンションビューローなどの観光部局と連携し、船会社の方に港や観光地を見学していただいたり、観光情報を発信するため英語版の観光パンフレットを用意しております。

■外国の方への対応はどうされていますか？

国内クルーズが多いので日本の方が中心ではありますが、最近は欧米の方も多く来られるようになってきており、「ダイヤモンド・プリンセス」の場合は半分以上が日本人ですが、欧米系の方も多く乗船しております。本年7月9日から寄港いただいている「スーパースター・ヴァーゴ」の場合は、上海からということもあり中国の方が多く横浜に来られています。



このため、語学ボランティアの方に対応を応援していただいているところです。

また、大さん橋の特徴として屋内は大空間となっております柱がないため案内板の設置が難しい状況にありますので、観光案内などの課題を解決するために、多言語化への対応を図るとともに、大さん橋内にデジタルサイネージ（電子看板）を設置する予定としております。



大さん橋の内部は柱のない大空間

■今後の取り組みや抱負は？

横浜市長が会長を務める「全国クルーズ活性化会議」では、120を超える自治体や港湾管理者が会員として加盟しております。最近では海のない自治体もありますが背景地として一緒になって客船の誘致を行っています。

また、観光庁が開催する合同商談会でも、各自治体が船会社にプレゼンを行い、積極的に客船誘致に取り組んでおり、国土交通省もインバウンド



ランドマークタワー・スカイガーデンからの眺望

(訪日外国人旅行) 500万人を目標にさまざまな取り組みが進められています。

こうした中、横浜港においては、来年以降客船の受入機能が強化されつつありますので、これらが達成できるよう横浜市としても新規客船の誘致やクルーズ振興策などを講じ、横浜港のさらなる活性化を目指した取り組みを継続していきたいと考えております。

■ メールマガジンを配信しているとお聞きしましたが。

横浜市港湾局のメールマガジン「横浜港クルーズメール」では、毎月1回定例で横浜港の客船入港予定や関連イベント情報を配信しています。おかげさまで平成17年に開設して以来、登録者数も6000人を突破することができました。

このメールマガジンでは客船歓送迎イベントや音楽隊のコンサートなどの情報も配信していますので、詳細・ご登録は横浜市港湾局のホームページの「横浜港クルーズメール」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kowan/cruise/ml/>

横浜港クルーズメールマガジン

「横浜港クルーズメール」

登録者数4000人突破しました!!

横浜港客船事務推進課では、毎月1回定例で、横浜港の客船入港予定や関連イベント情報を配信しています。また、客船会社や観光情報などの最新情報を随時配信しています。

配信情報

- 客船入港予定
- 観光情報
- 船舶会社
- クルーズ船
- イベント情報
- コンサート情報
- その他トピックス
- コラム

※登録者数は登録者数4000人、平成17年5月31日現在

「メールマガジンのおかげで客船を見逃さずですんだ」、「メールマガジンを読んで、お出かけする目を決めていく」など、ご登録者の皆さまに、お役に立てています。

●登録・ご登録は 横浜市港湾局ホームページ <http://www.city.yokohama.lg.jp/kowan/cruise/ml/> のページからお申し込み。
Eメール: kyrcruise@city.yokohama.lg.jp

【問合せ】横浜市港湾局客船事務推進課 電話：045-671-7272 FAX：045-201-4982
Eメール: kyrcruise@city.yokohama.lg.jp



港湾局の会議室からは大さん橋が見渡せる

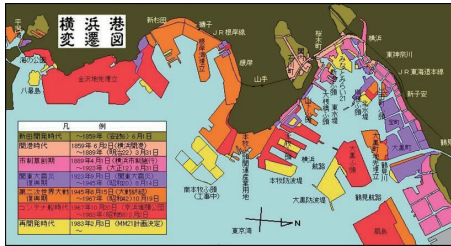


横浜湾入湾中の「にっぽん丸」



横浜港の変遷と歴史のご紹介

横浜港変遷図



「横浜港変遷図」は、造成時期のわかっているものを凡例のとおり色分けして表記しています。

凡例にある色以外の区域（濃い草色の部分）は、もともと陸地であったところや造成時期の不明なところを示しています。

横浜港の歴史年表（抜粋版）

- 1859（安政6）年 横浜開港、東・西波止場建設
- 1894（明治27）年 鉄棧橋（大さん橋の原型）完成
- 1895（明治28）年 生糸検査所が設立
- 1911（明治44）年 赤レンガ倉庫（2号）完成
- 1913（大正2）年 赤レンガ倉庫（1号）完成
- 1917（大正6）年 新港ふ頭完成、開港記念横浜会館完成
- 1923（大正12）年 関東大震災で港湾施設が大被害
- 1934（昭和9）年 横浜税関（クイーンの塔）完成
- 1945（昭和20）年 第2次世界大戦終戦。港湾施設全て接収される
- 1951（昭和26）年 横浜市が港湾管理者となる
- 1959（昭和34）年 開港100年、現横浜市庁舎完成
- 1961（昭和36）年 マリントワーオープン
- 1964（昭和39）年 東京オリンピック、大さん橋国際客船ターミナルオープン
- 1980（昭和55）年 横浜ベイブリッジ着工
- 1983（昭和58）年 みなとみらい21着工
- 1986（昭和61）年 横浜港シンボルタワー完成
- 1989（平成元年）年 横浜博覧会開催（横浜市制100年、開港130年）、横浜ベイブリッジ開通
- 1993（平成5）年 横浜八景島オープン、横浜ランドマークタワーオープン
- 1996（平成8）年 横浜港流通センター（Y-CC）オープン、横浜ベイサイドマリーナオープン
- 1999（平成11）年 横浜ワールドポーターズ、ナビオス横浜オープン
- 2002（平成14）年 大さん橋国際客船ターミナルオープン、赤レンガ1・2号倉庫オープン
- 2004（平成16）年 みなとみらい線開業、国道357号線横浜ベイブリッジ区間開通



明治初め頃の西波止場



明治42年当時の大さん橋



現在の大さん橋と赤レンガ倉庫

「横浜港の変遷と歴史」は横浜市港湾局のホームページより抜粋し、掲載しております。詳しくは横浜市港湾局のホームページをご覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp> 横浜市>港湾局トップ>学ぶ>横浜港の歴史